

令和2年度 さいたま市立上里小学校 自己評価書

さいたま市立上里小学校
校長 梶山 崇 印

1 学校で設定した「令和2年度の目標」及び関係する「評価項目」について

(1) 人権意識・豊かな心をもたせるために、一人ひとりに存在感を味わわせる学年・学級経営の充実を図る。また、安全安心な学校づくりとして、緊急時の即時対応、食物アレルギーの事故防止の徹底を図る。

→ 不登校については、15日以上欠席児童が1月末の時点の比較で、昨年度より4名減少した。また、いじめ発生件数も同時期の比較で、2件減少した。不登校については、各ケースに応じ、スクールカウンセラー等との面談、教育相談室や児童相談所等と連携して、欠席数の増加を防ぐとともに、個々の課題の解決に向けた取組を続けている。いじめについては、昨年度以上に積極的な認知を進め、教職員が一丸となって積極的な生徒指導を心掛けているため、数値は減少している。素早い組織的な対応で解決し、経過観察を続けている。食物アレルギーについては、給食を提供するまでの複数のチェックと食後の見守りにより、事故は発生していない。

(2) 確かな学力、健やかな身体、豊かなかかわり合いを軸に、さいたま市が目指す「よい授業」の実現を目指し、授業改善、指導法の工夫を図る。

→ 基礎学力の定着と表現力の向上を主題として研修に取り組んできた結果、学校評価アンケートにおけるわかりやすい授業についての項目は、昨年度に比べ5%の向上が見られた。また、「よい授業」検証アンケートの結果においても、因子3の授業スキルにおいて、11月の数値がさいたま市平均を1.0ポイント上回った。今後は研修の成果を生かしつつ、因子4の児童生徒の活動についても、今できる活動内容で、主体的・能動的・協働的な学習活動を模索し、取り組むための研修も進めていく。

(3) 開かれた学校づくりを推進するため、学校評価に基づいた改善策を実施し、コミュニティスクールの体制づくり・推進・充実を図る。

→ 今年度は、ボランティアによる読み聞かせが実施できず、保護者から様子が見えない活動となってしまった。そのため、学校評価では、読書の習慣化が42%となり、昨年度より20%低下した。これは、今年度、感染防止策として学校図書を校外へ持ち出しすることを禁止したための結果となった。一方で、家庭での読書習慣は見られないが、図書館利用及び、校内での図書の貸し出しは増加し、読書に対する児童の興味・関心が高まり、読書時間が増えている。

安全については、防犯ボランティアの見守りにより、登下校時の事故発生を防ぐことができた。地域人材の活用に関する学校評価を取り入れるなど、今後の学校評価を見直していく。

(4) 教職員が学校業務改善計画を立て、ワーク・ライフ・バランスの充実を図る。

→ タイムカードによる勤怠管理で、職員一人ひとりが勤務時間外の在校時間を把握するとともに、定時退勤日の設定により、ワーク・ライフ・バランスの充実に努めている。しかし、消化できない状況もあり、更なる業務改善策を立てていく必要がある。

2 評価結果について

(1) 達成することができた項目

・学校での生活が楽しい ・すすんであいさつ ・仲よく過ごす ・安全に登校 ・授業の分かりやすさ

(2) 達成することができなかった項目

・決まりを守る ・体力向上 ・思いやりの心 ・地域行事や交流活動への参加

(3) 児童（生徒）の学力・学習状況について（全国及び市の学力・学習状況調査を活用して）

・算数の基礎的な部分が、昨年度に比べて数値が低下していたので、基礎学力定着プログラムや計算ドリル等をくり返し活用することで今年度は算数の基礎学力の定着を図っている。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

◆基本的な生活習慣の確実な定着

・川通中学校との合同あいさつ運動の取組で、積極的にあいさつをかわそうとする児童を育てる。また、次年度に向けて、密にならない状態を作りながら、あいさつ運動ができるよう委員会などに働きかける。

・児童会の主体性を生かし、昇降口の下足箱の「靴揃え」や、集中して清掃を進める「もくもく清掃」などを、キャンペーンとして取り組ませることで、基本的な生活習慣を定着させる。

◆生徒指導、教育相談、特別支援教育の更なる充実

・教育相談日や「心と生活のアンケート」、年2回行っている「いじめアンケート」をもとに、児童に発生しているいじめや心の問題を早期に発見し、ケースによってはスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携することで、迅速で効果的な教育相談活動を進める。

・担任をはじめ、児童と接する全ての教員が、生活や授業における児童の些細な変化を敏感にとらえることを意識し、教育相談的手法を活用した、個々の児童の悩みに応じた相談や指導を進める。

◆基礎学力の定着と表現力の向上、体力の向上

・「よい授業」アンケート、国や市の学力調査の結果をもとに、児童の学習上の課題を把握し、その課題に応じた指導法の工夫・改善を進めるための校内研修を充実させる。

・さわやかタイムの実施方法の検討、体育授業の充実と指導力向上、児童の体力の向上、その中でも投力については重点的に向上を図る。

◆学習環境の整備と充実

・学習指導上の必要性や安全性をもとに教材教具等の購入や作成を検討するとともに、GIGA スクール構想に基づく新しい学習の進め方の検討を行い、ICTを活用した学習活動を推進する。